

だんだんと墨が薄くなりかすれていくとAさんは、そのかすれていくのを見ながら笑いだしました。ペンで描いた時とは違い、描かれていくうちにかすれていく筆の一定ではない変化に面白さを感じているようでした。

こだまの 日常活動 國分 央

Bさん(横地分類A2)は、背這いや寝返りで移動して、近くを職員が通るとその動きを見えています。職員が少し離れたところから自分に近づいてくる様子もよく見ており、声を掛けられたり目があつたりすると笑顔がみられます。職員がゆっくりと近づいたり、わざと足音をさせて近づいたりすると、その様子に面白みを感じているようです。

そこで動きの変化と動いているものが徐々に近づいてくる間合いの面白さを感じられる活動をしました。職員がヒューと言いながら少しずつBさんの方へ手を近づけていくと、Bさんは職員手の動きを追ってよく見ていました。そしてストンで身体に触れるとBさんは始め少し驚いたよ



うな表情になりました。もう一度ヒューと言いながら手を近づけると、Bさんはまた職員の手動きをよく見始めました。ストンで触れると今度はBさんの表情が緩みました。次は、ストンの前に少し間を空けると、Bさんはこやかな表情で職員を見ていました。次に触れられるのを期待しているようでした。また触れる間隔がずれたり、近づけていた手が遠ざかったりするのもよく見ており、身体に触れるまでの間にも面白みを感じているようでした。続けて、「あがりめさがりめ」の歌にあわせて「め」のところではBさんの身体に触れました。職員が歌い始めると、職員と目を合わせてこやかな表情をして聞いていました。「め」で身体に触れると始めは笑っ

ていました。続けて歌いかけ、「ぐるっとまわって:」のあとに間を空けると、Bさんは今度は職員を見つめたまま動きを止めてじっとしてました。次に触れられることを待っているようでした。

またBさんは、職員の歌いかけや楽器の音がすると、そのほうに顔を向けてじっと聞いています。キーボードの音で簡単なメロディーを聞いてもらう活動をしました。職員がキーボードを準備すると、Bさんは表情を緩めて近づいてきました。始めは「かえるのうた」のような単調なメロディーを弾きました。Bさんは始めは聞いていました。Bさんが少しすると曲の途中でキーボードのそばを離れていきました。今度は「春の小川」のようなメロディーラインが複雑な曲に変えて弾くと、Bさんは身体の向きを変えて、弾いているところを見はじめました。曲調の変化に気がついて耳を傾けているようでした。繰り返し弾いていると、Bさんは少しずつキーボードの方へ近づいてきました。演奏している近くまで来ると、そこでじっと動きを止め、キーボードを見ながらよく聞いていました。Bさんはひとつくりの曲の中で単調な旋律より

も、音階が多くある複雑な旋律の曲に興味を持って聴いているようでした。

あおばの 日常活動 平塚 信恵

今年4月にあおばで生活を始めたCさん(横地分類A1)は、足元の方から他児が背這いでだんだんと近づいてくる気配に気がつきます。枕元にあるタオルに他児の手が勢よく伸びたとき、Cさんの体に力が入り、顔が少しずつ赤くなっていきました。Cさんの気持ちの動きを感じたのは、近くに来て手を伸ばしている他児が少しの間動きを止めたときのことです。その間Cさんは、これから周囲で起こるできごとにアンテナを張り巡らすようにじっと動きを止めていました。

このことからCさんには、「いち、にの、さん」のフレーズで、「さん」までの間を変化させていくやりとりをしました。「さん」がくるタイミングをより意識できるよう、Cさんの肩にそっと触れるようにしました。「いち、にの、さん」とかけ声のような抑揚の大きいリズムを耳にすると、Cさん



の表情が緩みました。そして、「さーん」のタイミングで肩に触れると、ぱっと明るい表情になりました。しかし、間合いを変化させながら数回繰り返す中で、じつくりと耳を傾けようとする様子はありませんでした。「さーん」で肩に触れることを感じてはいましたが、そのタイミングへの期待はないようでした。「さーん」の声は、その前の「いち、にの」と切り離されて感じていたのかもしれない。

日常の様子から見ても、Cさんにはもっと淡々と進んでいくフレーズの方が、次に続く声により耳を傾けたいかなるのではないかと考えました。そこで「おはながさいた、ぼん」という落ち着いたトーン